

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長  
( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察情報について

平成30年度病害虫発生予報第8号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 電話 076-257-6972 (直通) FAX 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

## 病害虫発生予報第8号

(予報期間：3月下旬～4月下旬)

### 予報内容

#### 水 稲

**もみ枯細菌病（苗腐敗症）**の発生はやや少と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

#### 大 麦

**オオムギ赤かび病**の発生は、やや少と予想される。出穂期の3～5日後およびその7～10日後の2回防除する。本年は暖冬で推移し出穂期が早まる可能性があるため、麦の生育状況に注意し、防除が遅れないよう留意する。

#### 果 樹

**かき炭疽病**の発生は、多と予想される。罹病枝は発生源となるので直ちに切り、圃場から除去する。休眠期の防除を徹底する。

**ハダニ類**の発生は、多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### 野 菜

**施設野菜のアブラムシ類**の発生は、多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**施設野菜のハダニ類**の発生は、やや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。 また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。
--

## 気象予報

### 1 か月予報（平成31年3月7日付け 新潟地方気象台）

予報期間：3月9日～4月8日

#### [確率予報]

気 温	低い	10%	、	平年並	20%	、	高い	70%
降 水 量	少ない	30%	、	平年並	40%	、	多い	30%
日照時間	少ない	30%	、	平年並	40%	、	多い	30%

#### [概要]

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に期間のはじめは気温がかなり高くなるでしょう。

- ・ 3月9日（土）～3月15日（金）

低気圧や湿った空気の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

- ・ 3月16日（土）～3月22日（金）

低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わるでしょう。

- ・ 3月23日（土）～4月5日（金）

低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わるでしょう。

### 3 か月予報（平成31年2月25日付け 新潟地方気象台）

3月： 低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わるでしょう。

4月： 低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすく平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

5月： 低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。  
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、  
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

## 1 水稻の病害虫

### 苗いもち

発生時期	育苗期
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の穂いもちの発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### もみ枯細菌病(苗腐敗症)

発生時期	育苗期
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### 褐条病

発生時期	育苗期
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### 苗立枯細菌病

発生時期	育苗期
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

### ばか苗病

発生時期	育苗期
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (-) (2) 育苗期の気温は高い (+)
注意事項	(1) 種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。 (2) 種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

#### 苗立枯病（ピシウム菌）

発生時期	育苗期
発生量	少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少（－） (2) 育苗期の気温は高い（－）
注意事項	(1) 育苗資材や施設の洗浄・消毒を励行する。 (2) 育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

## 2 麦類の病害虫

#### オオムギうどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は認められない（－） (2) 気温は高い（＋）
注意事項	(1) 発生は常発地に限られている。

#### オオムギ雲形病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少（－） (2) 現在の発生は未確認（－） (3) 気温は高い（＋）
注意事項	(1) 発生を認めた圃場では、茎立期の防除を徹底する。

#### オオムギ赤かび病

発生時期	出穂後
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 近年の発生は少（－） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
注意事項	(1) 出穂前後の降雨は発生を助長する。 (2) 出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除する。

## 3 果樹の病害虫

#### かき炭疽病

発生時期	感染期は4月以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 前年の発生は多（＋） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
注意事項	(1) 罹病枝は発生源となるので直ちに切り、圃場から除去する。 (2) 休眠期の防除を徹底する。

#### ハダニ類

発生時期	4月中旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 4 施設野菜の病害虫

#### 灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 一部は場ですでに発病が見られる。 (+) (2) 気温は高い (-) (3) 降水量は平年並み (±)
注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) ハウス内の換気に努める。

#### ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は認められない (±) (2) 気温は高い (+)
注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 栽培の早いほ場ですでに多発が確認されている (+) (2) 気温は高い (+)
注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 5 花きの病害虫

#### きく白さび病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は平年並 (±)
注意事項	(1) 親株ハウスの換気に努め、防除を徹底する。